

普及活動情勢報告（令和4年8月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

法人経営の強化と農地の維持管理に向けて ～いの町の（農）上東がユズ栽培について検討～



8月18日、（農）上東の定例会に役員6人と、いの町役場及び農業改良普及課も参加して、ユズ栽培試算に基づき検討しました。候補ユズ園現地調査結果をもとに、農業改良普及課が、改植した場合の酢玉及び青果出荷について、18年先までの収支試算について説明しました。役員からは「水稲作業のない冬場の稼ぎにしたい」「（農）上東の後継者づくりのきっかけとして賛成」など栽培に前向きな発言があり、ユズ栽培に取り組むことになりました。農業改良普及課は、今後、ユズ栽培に向けた体制づくりや後継者確保につなげていく方法等を提案しながら、栽培が軌道に乗るよう支援していきます。

ショウガ栽培農地の健全化に向けて ～JA高知県仁淀川地区コスモスショウガ部会が栽培講習会を開催～



7月22日、JA高知県仁淀川地区コスモスショウガ部会がパストラルホールで栽培講習会を開催し、生産者42人が参加しました。農業改良普及課は、土佐市ショウガスマート農業協議会の取り組みと、土壌病害防除対策として効果的な土壌還元処理について説明しました。生産者からは「空撮画像をAI学習させることで早期の病害発見に繋げて欲しい」「低濃度エタノールを利用した土壌還元処理にかかる資材費を教えて欲しい」との声が聞かれるなど、土壌病害防除対策の徹底への意識を高めることができました。農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携して、健全農地の確保に向けて支援していきます。

高品質酒米の安定生産に向けて ～土佐酒振興PF酒米部会が「吟の夢」現地検討会を開催～



8月19日、いの町吾北地区上東で土佐酒振興プラットフォーム酒米部会主催の「吟の夢」現地検討会が開催され、地区内7人、地区外22人の計29人が参加しました。農業改良普及課と上東の生産者が資料をもとに耕種概要を説明した後、地区外の参加者等との検討および意見交換を行いました。上東の生産者の「吟の夢」は、毎年酒米品評会で上位を独占していますが、「品質は良いが、現行の生育から見ると、植え付け時期を検討すればもう少し収量が多くなるのではないか」「選別や売り方を工夫すればもっと収益が高くなるのではないか」などの声があり、外部からの視点により新たな改善点が見つかりました。農業改良普及課は、今後も他産地との交流を通して、管内産地のレベルアップに向けた支援をしていきます。

ショウガパウダーを使った新商品を開発中 ～6次産業化支援チーム会を開催～



7月27日、いの町枝川にある農産工房やしろ加工場で6次産業化支援チーム会を開催し、工房の3人と関係者4人が参加しました。農業改良普及課がコーディネートしながら、高知農山漁村発イノベーションサポートセンターの地域プランナー（6次産業化アドバイザー）の指導のもと、ショウガパウダーを使った焼き菓子を2種類試作しました。試作品の試食の時に加工者から、「もう少しショウガが効いていてもよさそう」「効率よく乾燥焼きするにはどうしたらいいか」などの声があり、商品化に向けて材料や加工の工程等について協議を行いました。農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して新商品の開発に向けて支援していきます。